

# 激動の幕末・明治維新史料

## 第 23 回講義 自由民権運動 (原田敬一先生)

2 班広報担当 2023 年 2 月 14 日

今回は原田先生の講義で、「第 30 回 自由民権運動」のレジюмеに従っての講義がありました。

### 1. 民撰議員立憲白書の意義

#### ○ 1874 民撰議員設立立憲白書を提出

##### 内容

- ① 「公議」が必要で「民撰議員設立」によるのみ。
- ② 租税協議権＝国家の予算決算の決定権＝使途を協議すべき
- ③ 愚民観（支配層に特有）との闘い：支配層は人民を不学無知と観ている。
- ④ 民撰議員の設立が人民の開明に進ませる。
- ⑤ 征韓論政変を例に、政府と人民の「情実融通」の必要性、政策の公明性、情報公開
- ⑥ 改革批判（「軽々進歩」）への反論
- ⑦ まとめ：民撰議員の設立＝天下の公論の発展、人民の権利確保、社会のエネルギー発露、上下君臣の一体化、帝国の維持発展、人民の幸福安全の保護

### 2. なぜ板垣たちの訴えは受け容れられたのか

#### ○ 江戸時代に普及した考え方「仁政が求められる」・為政者の責任、被統治者の責任追及、自由民権運動の初期は旧武士層（士族）が担い手

Ex. 板垣退助、河野広中

#### ○ <強い国家>には<強い人民>が必要という民撰議員設立検波悪書の論理 <強い人民>：公議輿論、政治的権利（参政権・言論集会の自由）

#### ○ 維新政府（太政官政府、大久保政権）の構想

憲法制定・国会開設は時期尚早（大久保利通は 1887 年以降を想定）

（木戸孝允は、国会よりも「独裁ノ憲法」）

1881.3 参議大隈重信「国会開設意見書」 1882 年末議員招集、

1883 年初頭国会開設、政党内閣制

行政・軍事・産業の制度作りが優先（殖産興業）

「富国」派：大久保利通、大隈重信、黒田清隆

「強兵」派：山縣有朋、西郷従道

伊藤博文「教育議」

### 3.自由民権運動の展開—人々は何を求めたのか—

▲維新後 20 年間の実態＝改革の強力推進に必要な行政機構と官僚による統治

「公議輿論」の無視、密室政治、文武官を通じて藩閥重視の人事、

#### ○ 自由民権運動の要求＝国家と国民の契約＝憲法の必要性

国や社会はどうあるべきか

←伊藤博文たちは、愚民観をもち、民党対策を意識した憲法を起草した。

密室で側近とお雇い外国人による起草、枢密院のみの審議

#### ○ 討幕の論理＝「公議政体」の唱道＝幕末以来の憲法構想＝議会（国会）の必要性

五箇条の御誓文「広ク会議ヲ起シ万機公論ニ決スヘシ」

大日本帝国憲法の規定では、予算成立・法律の制定に議会の「協賛」が必要。

#### ○ 国会開設運動の盛り上がり：建白書→立志社など各地に結社誕生→愛国社結成

各地の民権結社への政府対応＝大阪会議、漸次立憲政体樹立の詔、地租改正反対一揆、

地租軽減の詔書、西南戦争、地方三新法制定、

：（竹橋事件）

愛国社大会、＜国会開設建言＞提出、国会期成同盟、集会条例、町村会法制定、

酒屋会議開催、

### 4.明治維新が「革命」でなかったことの弱点

#### ○ 士族民権（知識人）→豪農民権（減税要求）→

民衆民権（生活苦、秩父事件、借金党・小作党） 発言する人々

#### ○ 「客分」から、「国民」への転換はできたのか

江戸時代の「仁政」意識の共有も、統治者/被統治者の枠をでなかった

近代国家—社会は、主体的な「国民」を必要とする。

#### ○ フランス革命が生んだ「国民軍」、日本もそれを目指したが、

\*ナポレオンの革命輸出を支持した仏国民/19世紀の独仏も徴兵忌避に悩まされた。

1872年「徴兵告諭」の武士否定＝国民皆兵

#### ○ 行政・軍事が肥大化した国家の構造。それを天皇が支える。＝大日本帝国憲法

官尊民卑の構造。社員・職員/工員の差別構造。

国民は客分。臣民

以上